

青雲

21号 2019.3

発行人／一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会

「青雲」

—— 題 字 ——

前島根県知事 澄田信義 氏



『新しい力』

太平洋戦争において敗戦した日本。全土が焦土と化し甚大な損害を被りながらも、高度経済成長を成し遂げた。21世紀に入り、快適な生活環境重視の中、経済不安・環境問題等様々な弊害が生まれた。地球全体が温暖化に悩まされている現在ではあるが、オゾン層破壊の原因となるCO₂削減のため風力発電・太陽光発電などの新しいエネルギーが誕生し、今後も更に「新しい力」の研究・開発が進んでいく。我が青年部会も「新しい力」となれるよう精一杯邁進していきたい。

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会 総務広報委員会

青雲

21 MAR. 2019 VOL.21
CONTENTS

【巻頭言】

1 平成の時代から次代へ

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 部会長 内藤 正和

【次世代建設就業者育成事業】

- 3 次世代建設就業者育成事業の背景と目的／現場見学会・意見交換会の概要
- 4 出雲湖陵道路三部地区改良第5工事見学
- 5 建設機械搭乗体験
- 6 斐伊川放水路事業説明・意見交換会
- 7 テレビ放送・新聞記事掲載
- 8 出雲農林高校生の感想文
- 11 しまね建設産業イメージアップ女子会
- 12 アンケート結果
- 14 次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を実施して感じること(考察)
- 15 出雲農林高校(環境科学科)中学生一日体験入学支援事業に参加して
経営研究委員会 委 員 三原惇志

【平成30年度事業報告】

- 16 クリーンアップ道路清掃 地域貢献委員会 委 員 日野 肇
- 17 研修視察 会員交流委員会 委 員 石飛大輔
- 18 意見交換会2018 会員交流委員会 副委員長 柳樂則昭
- 19 土木の日記念イベント 地域貢献委員会 委 員 山根英二
- 20 西日本豪雨災害ボランティア活動 総務広報委員会 副委員長 布野智大

- 21 新入会員紹介 (株)今岡興産 日野 肇
(株)中筋組 石飛大輔

- 22 歴代部会長
編集後記 総務広報委員会 委 員 御船善弘

平成の時代から次代へ

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会
部会長 内藤 正和



平成の時代が間もなく終わろうとしています。バブル崩壊と公共事業費の大幅削減といった冬の時代が続いた建設業界でしたが、東日本大震災などの多発する自然災害を通じてインフラの社会的な役割が見直されて、環境が大きく変化したと思います。私たち建設業界は、平成の時代に何を学び、その教訓は新たな時代でどう生かされるのか。

平成に入って直面したバブル崩壊によって建設業界の企業経営面では、厳しい時期もありました。また、建設業界にとって平成の時代で一番大きな出来事は一般競争入札の導入ではないかと思います。公共工事の入札契約制度で透明性の確保を求める機運が高まり、入札のメインが指名競争入札から一般競争入札にシフトしていきました。一般競争入札の浸透は、建設業の受注の仕組みを大きく変えたと思います。公共工事に公平性をもたらした一般競争入札ですが、2000年代には価格競争を逆手にとったダンピング受注が発生。過度な価格競争による工事品質の低下や下請へのしわ寄せが問題になりました。そして、建設技術者の自尊心を傷つける要因になっただけでなく、業績悪化による労働者離れを引き起こすなど、建設業界にとっても苦い教訓となったと思います。

2009年7月の総選挙で「コンクリートから人へ」をスローガンに掲げた民主党が政権を奪取し、2010年度の予算で公共事業費が大幅に削減されました。2008年秋のリーマンショックの影響で民間の建設投資も落ち込み、当時を振り返ると建設業界にとって最も厳しい時期だったように思います。その後、2011年3月11日に東日本大震災が発生しました。この震災を境に国土強靱化に対する意識が高まったと思います。そして、震災の翌年2012年12月に起きた中央自動車道笹子トンネル天井板崩落事故では、老朽化したインフラの脆弱さが表面化し、日本のインフラは老朽化しており、それを維持しなくてはいけないということに社会全体が気づき始めたきっかけになったと思います。

2012年の自民・公明連立政権復活により国土強靱化への集中投資や震災復興、2020年の東京五輪関連を起爆剤に建設投資は回復基調になったと思いますが、今後は人手不足が次代への喫緊の課題だと思います。建設業界としても情報通信技術の活用による生産性向上施策や働き方改革等の現状打開策を打ち出していかなければな

りません。安倍内閣成立以降の取り組みは建設業界にとって将来に向けて大きな転換期になると思います。

今後、東京五輪、大阪万博等の大規模イベントに向けた盛り上がりが高まる一方で、日本各地で地震リスクも年々高まり、早急な災害への備えが必要で老朽化インフラ対策を急ぐ声もあり、建設業の役割は益々重要になっていきます。

建設業界は、この流れのままで新しい時代へ移行できるのでしょうか。「良い流れが来ている。この流れを逆戻りさせてはならない」と言われる人もいます。平成と言う時代の大きな教訓として、同業者の後を追っても先がないということを学びました。独自で色々な事を考えていかないと次の世代は成り立たないと思います。

また、AI（人工知能）やロボットの普及により、新たな次代での大きな変革が予想されます。

職人がロボットを使いこなし、その分職人がよりレベルの高い仕事をできるようになり、建設技能工の多能工化やロボットの導入等が進むことで、生産性や施工プロセスの抜本的な変革が引き金となり、建設業の重層構造が成り立たなくなるのではないかと予想する人もいます。

得意分野は共有しつつ、業種・業界の壁が無くなってボーダーレスな時代になるのではないかと思います。平成の30年間の中で学んだことをいかに後世に伝えられるか、それが日本にとっても建設業界にとっても非常に大きな意味を持つと思います。

結びになりますが、島根県出雲地区建設業協会青年部会並びに会員企業をはじめ、発注者の皆様や他団体など連携し私たち建設業界にとって、新しい時代の幕開けが素晴らしい一年となるように、青年部会としても様々な活動を展開して参りますので、引続き、ご理解ご支援のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。



次世代建設就業者育成事業の背景と目的

全国的には、震災復興事業の継続や2020年東京オリンピック関連の民間投資、アベノミクス以降の不動産市況の改善により、建設需要は高い水準を保っていると言われてしています。しかし、その需要は東京を中心とした大都市に集中しており、地方との地域間格差はかなり大きく、地方の建設業は依然として厳しい状況に置かれています。

また、雇用環境も若年層の建設業在職者が著しく減少しており、技術者・技能労働者の高齢化といった構造的な問題も深刻な課題となっています。少子高齢化により、労働者が減少しているため、どの業界でも人手不足と言われます。ただ、ほかの業界と比べても我々建設業が突出して人手不足に悩まされているのは、建設業界独特の「きつい」、「汚い」、「危険」といったネガティブなイメージが先行し、若者が建設業界に就職したくないといった風潮が大きな要因になっています。将来の建設業の担い手となる若年者に対して建設業の魅力を発信し、「ものづくりの喜び」「やりがいのある」業界であるというメッセージをしっかりと伝えていく必要があります。

我々青年部会では、出雲農林高校環境科学科2年生を対象に現場見学会に合わせて発注者や若手技術者を交えた意見交換会を平成25年度から開催しています。参加者に建設業の魅力を伝え、建設業の社会的使命の重要性などを再認識してもらうことを通して、建設業への入職定着に繋げていく事業を行っています。

現場見学会・意見交換会の概要

- 学校名 島根県立出雲農林高校
- 開催日 平成30年10月30日(火)
- 現場見学参加者 環境科学科2年生 39名(うち女性4名)、教員2名

9:00~10:30	<p>●現場見学会 発注者 国土交通省中国地方整備局 松江国道事務所 受注者 株式会社 トガノ建設 工事名 出雲湖陵道路三部地区改良第5工事 (内容) 松江国道事務所 挨拶及び事業概要等説明 施工現場見学(現場打ボックスカルバート工を見学) 3D映像による現場のCADイメージ体験 快適トイレ・休憩所視察</p>
11:00~11:50	<p>●現場見学会 (内容) 国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所による放水路事業説明 斐伊川放水路分流堰・管理棟 見学</p>
11:50~13:00	昼食・休憩
13:00~15:00	<p>●建設機械搭乗体験 → 三和興業株式会社 駐車場 (内容) 建設機械搭乗体験 協力業者:株式会社板倉重機 ・アーティキュレートダンプ 2台 ・バックホウ 0.8m3級 2台 しまね建設産業 イメージアップ女子会</p>
15:00~17:00	<p>●意見交換会(出雲建設会館) (内容) 若手技術者による講演会 VR映像体験 意見交換会(グループワーク)</p>

出雲湖陵道路三部地区改良第5工事見学



松江国道事務所建設監督官 石本様・(株)ガノ建設 中島様からの工事説明



現場打ボックスカルバート工を見学



3D映像による現場のCADイメージ体験

快適トイレの説明



実際に中に入ってみました



きれいで印象がかなり変わりました



ソーラー付休憩所の説明



最新測量機器の説明

実際に測量してみました



最新測量機器の説明



建設機械の説明

建設機械搭乗体験

アーティキュレートダンプ搭乗体験



真剣に
操作方法を
聞いています



バックホウ搭乗体験

意外と難しい



熟練オペレータによるデモンストレーション



斐伊川放水路事業説明



出雲河川事務所 神戸川・放水路管理室
室長 梅野様からの事業説明

実際に分流堰を
操作した映像も
見せていただき
ました



管理室見学



分流堰見学

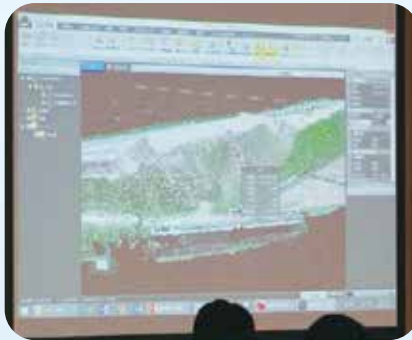


大きさにびっくり
しました

意見交換会



(株)中筋組 榎本様による講演



VR映像体験



意見交換会



本事業をマスコミに取り上げていただきました!

出雲ケーブルビジョン平成30年11月2日(金)放送



農高生と意見交換

建協出雲青年部

出雲地区建設業協会
青年部会(内藤正和部

会長)は10月30日、同
市内で現場見学・意見
交換会を開き、出雲農
林高校環境科学科の2
年生39人が参加した。

を受け、ソーラー発電
パネル付きの現場事務
所や快適トイレを見学
した。

意見交換会は、7班
に分かれて開催。「将
来は公務員になりたい
」と話す生徒が一定
数いる中、「土木系の
進学を考えている」
「実家の近くで就職し
たい」という生徒が多
数占める
班や「建設
関係の技術
者になって
防災に役立
つ仕事がし
たい」とい
う意見もあ
り、対応し
た青年部員
は「将来が
非常に楽し
み」と喜ん
でいた。

建設興業タイムス 平成30年11月3日(土)

現場見学をする生徒ら＝出雲市湖陵町



数占める
班や「建設
関係の技術
者になって
防災に役立
つ仕事がし
たい」とい
う意見もあ
り、対応し
た青年部員
は「将来が
非常に楽し
み」と喜ん
でいた。

工事現場見学会・意見交換会に参加して

島根県立出雲農林高等学校

環境科学科2年 伊藤 滉 基



今回の現場見学会では、まず湖陵町の道路建設現場に行きました。ボックスカルバートというものを初めて見ましたが、地中内での道路のつくり方にも様々な方法があることを知り驚きました。また、コンピュータを使い3Dの完成図を作ることで、地域の方へ現場説明をする時に分かりやすく便利だろうなと感じました。そして、快適トイレを見たときは、とてもきれいで使いやすそうだなと思いました。今まで現場のトイレは狭く、臭いがきついイメージでしたが、快適トイレは広く、臭いもしなくてこれならば安心してトイレに行くことができるなと思いました。

次に斐伊川放水路の見学をさせていただきました。この放水路は大雨の際に使用されますが、これがあれば洪水もなく安心して過ごすことができるなと思いました。実際に放水路の中へ入らせてもらいましたが、放水路の広さに驚き、土木構造物のスケールの大きさを感じました。

午後からは重機の搭乗体験を行いました。アーティキュレートダンプの運転体験では、バックをするときに後ろが全く見えずとても怖かったです。こんな大きなダンプを運転する機会などまずないので、とても良い経験をさせていただきました。バックホウの操縦体験では2つの操縦レバーで自由に操作することができ、とても楽しかったです。最後にオペレーターの方々が行われたバックホウの綱引き対決は、すごい迫力で見ていてとても楽しかったですし、操縦テクニックもすごいなと感じました。

最後に意見交換会があり、将来の進路について建設業をされている方々と一緒に話し合うことができました。将来は公務員を目指していますが、重機オペレーターもカッコよくていいなと感じることができました。

今回の体験では、自分の進路について考えたり、現場の最新技術や、技術者の方々のすごさを知ることができたりなど、とても良い経験になりました。このような機会をいただきありがとうございました。

工事現場見学会・意見交換会に参加して

島根県立出雲農林高等学校

環境科学科2年 坂本美杏



今回、現場見学会・意見交換会に参加させていただきました。まず湖陵の道路現場へ行きました。ここでは、道路建設現場の説明をしていただいたり、3Dでの完成図や、1人でも測量を行うことのできるトータルステーションなど最新の測量器械を見せていただいたりしました。また、現場環境の改善点として男女別々のトイレの設置や、太陽光パネルにより発電し、その電気を使って稼働する冷暖房を備えた休憩所など、働きやすい環境がつけられていることを知れて良かったです。現場の方々はわからないことがあると、優しく教えて下さりとても勉強になりました。

次に斐伊川放水路の見学に行きました。私は何年か前に神戸川で氾濫が起きたことを知りませんでした。放水路があるおかげで、川の氾濫災害の減少につながっていると分かりました。実際に放水路内に入ってみると、とても広くて驚きました。なかなか出来ない体験をさせていただき良かったです。

午後からはバックホウとアーティキュレートダンプの搭乗体験をさせていただきました。実際、大型重機に乗って操縦してみるとすごく難しかったです。プロのオペレーターの方の実演では、あんなに大きな機械を自分の手足みたいに操縦しておられ、すごく感動しました。普段ではできない貴重な体験をさせていただきました。

最後に意見交換会を行い、現場で働いておられる女性のお話しが聞けて良かったです。また、女子会の方々に相談や質問などさせていただき、女性目線でのお話しが聞けてとても勉強になりました。私はこのような女子会があることを知りませんでした。今回知ることができ、女性でも働きやすいなと思いました。私も建設関係の職業に進んだら是非入りたいと思います。

今回の見学や意見交換会で学んだことを、これからの進路に活かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

工事現場見学会・意見交換会に参加して

島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 飛口 慧実



今回は、出雲地区建設業協会青年部会の方の案内により現場見学と意見交換会に参加しました。

はじめに佐田へ向かう途中にある道路工事の現場へ行きました。工事現場ではボックスカルバートの設置や快適トイレ、自動追尾型トータルステーション、3Dによる現場の完成イメージ図などを見させていただきました。その中でも驚いたのは、ボックスカルバートと自動追尾型トータルステーションです。ボックスカルバートは施工後、最終的には土を覆い被せてトンネルのようになると聞き、こんなに大きなものを覆うためにはかなりの土が必要だなと思い驚きました。自動追尾型トータルステーションは、ターゲットを本当にずっと自動で追いかけているのがとても印象に残っています。

その後、斐伊川放水路を見学しました。最近では9月30日に放水路のゲートが倒され、使用されていたということを知り驚きました。この放水路のおかげで斐伊川の氾濫が抑えられていると知り、とても大切な施設なのだと感じました。

午後からの大型重機の運転体験ではアーティキュレートダンプトラックと大型バックホウに乗り操縦させてもらいました。アーティキュレートダンプは特殊車両のため、夜間の決められた時間に、現場まで輸送することと知りました。確かに走っている姿を見たことがなかったので、そのようなルールがあるためなのかと思いました。運転席の高さは普通の車の2倍くらいあり、前に人が歩いていても本当に気がつかないだろうと思いました。大型バックホウは以前にも少し操縦体験をしたことがありますが、思っていた以上にうまく運転ができて嬉しかったです。また、プロの方たちは、まるで自分の手足のようにととてもスムーズに操縦されていてすごいなと感じ、機会があればまた乗りたいと思いました。

意見交換会では、自分の話以外にも建設業で働いておられる方のお話を聞くことができ、とてもいい経験をさせてもらいました。

今回のことを進路決定の参考にしていきたいと思います。ありがとうございました。

しまね建設産業イメージアップ女子会

出雲農林高校の現場見学会にしまね建設産業イメージアップ女子会が参加しました!

★女子会が参加するきっかけ

3年前、島根県出雲地区建設業協会青年部会の方々に誘っていただきました。当初は女子生徒もいるので、女性同士の方が話しやすいだろうということ、また女子会のメンバーが高校生へ話をするというので、二つ返事で参加を決めました。今では、この現場見学会に女子会メンバーが参加することが恒例となっております。

★一緒に楽しみ、学ぶ現場見学

現場見学で山陰道の現場へ高校生と共に行きました。普段の自分の現場とは違う現場を見学でき、女性用トイレの普及など現場環境整備が整ってきていることを実感しました。またドローンなどの最新技術を活用した現場管理など、高校生と一緒に学ぶことができました。

★重機搭乗体験（女子会PRの場）

重機搭乗体験の待ち時間を利用して、女子会の活動をPRさせていただきました。女子会が制作している「しまね建設女子図鑑」を配布し、見てもらいました。この図鑑は毎年女子会が制作・配布している「しまね建設産業イメージアップカレンダー」のモデルになぜこの仕事に就いたのか？仕事のやりがいは？など答えていただき、多くの学生・生徒へ、向けて建設業の仕事の内容ややりがいを伝える冊子となっています。

図鑑を見ながら、「就職はどうしようと思ってる？」など質問をしたり、女子会の活動について話しをさせていただきました。

★意見交換会

若手技術者からの話のあと、女子生徒4人と意見交換をしました。現場での環境整備（女性用トイレ）の話や、結婚・出産を通して、仕事をし続けるにはなど話しをし、女子生徒からは「お休みがありますか？」「出会いはありますか？」などの質問がありました。女子会からは「何がよければ、建設業で働きたいと思う？お金？休み？？」など最近の高校生がどのように考えているのかを聞きました。意見交換は和やかに楽しく終了しました。

★全体を通じて

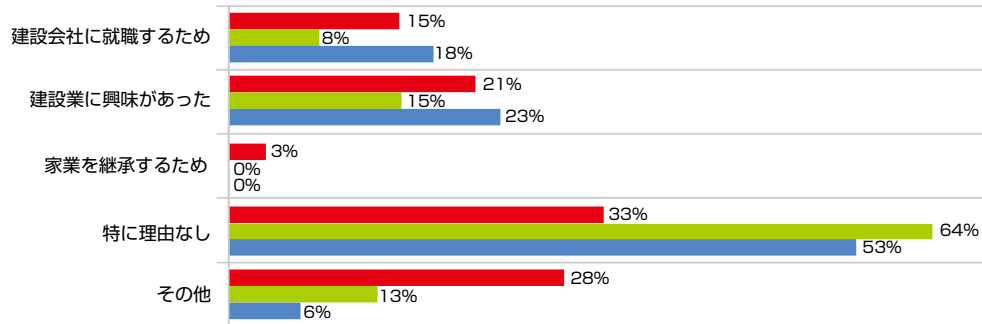
女子会の活動を広く知ってもらい、より働きやすい職場とするために、高校生からの率直な質問・疑問に答える機会があることは、女子会にとっても貴重な時間でした。これからの担う高校生の多くが、建設業に進んでくれることを願います。そのために、女子会も活動を続けてまいります。

アンケート結果

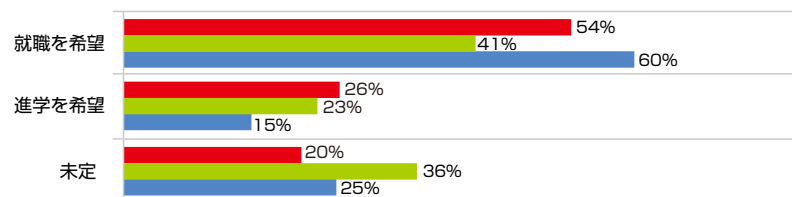
実施日／対象者

- …平成30年10月30日／見学会参加生徒 39名
- …平成29年11月 1日／見学会参加生徒 39名
- …平成28年11月 8日／見学会参加生徒 40名

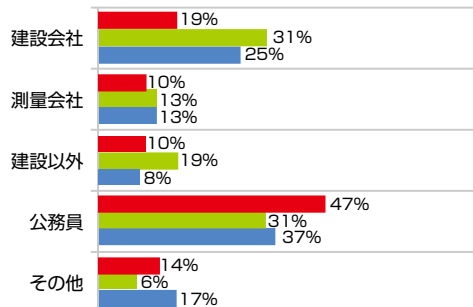
出雲農林高校に進学した理由は何ですか



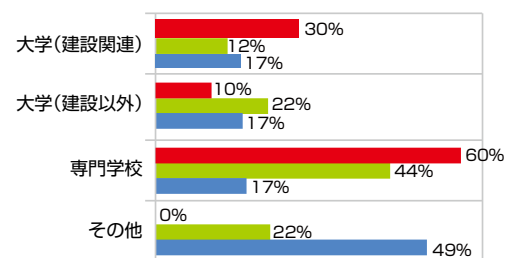
高校卒業後の進路について伺います



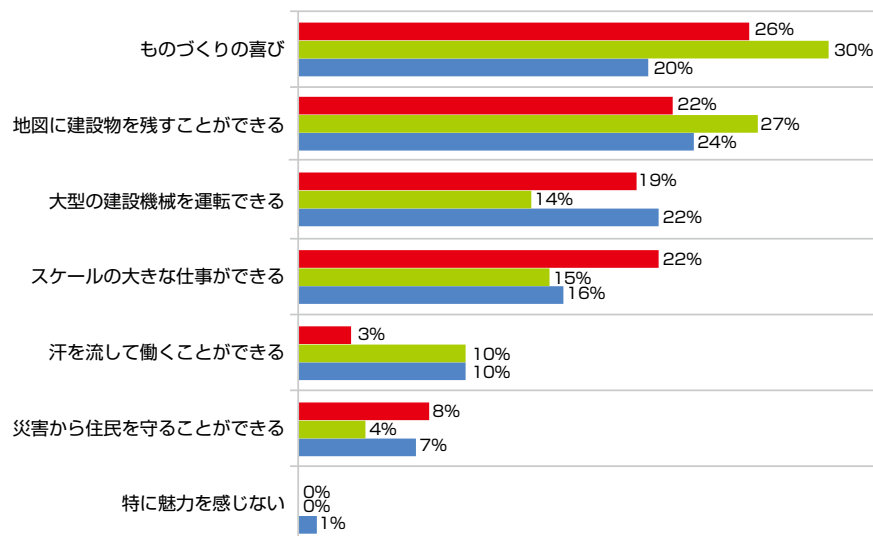
就職を希望した人



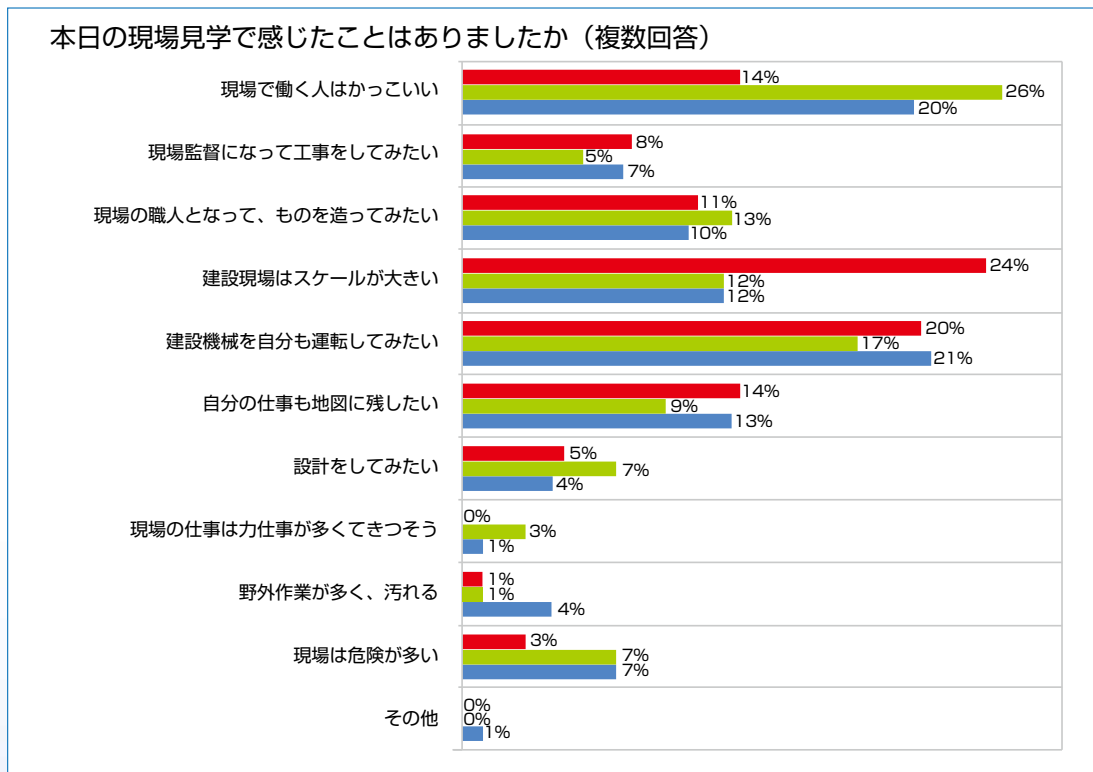
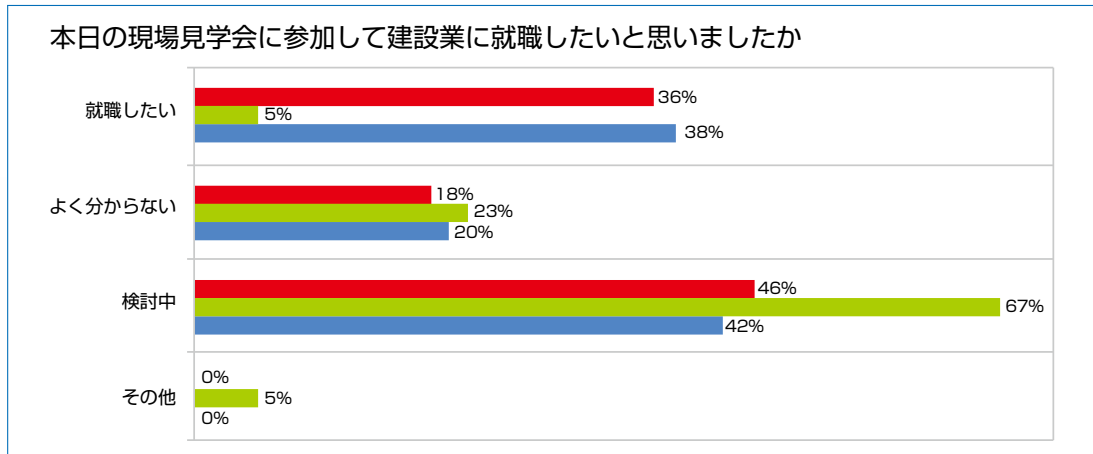
進学を希望した人



建設業の魅力について感じるものは何ですか（複数回答）



■…平成30年度
 ■…平成29年度
 ■…平成28年度



アンケート結果(まとめ)

今回の事業では、農林高校生の皆さんに建設業の魅力を伝えもっと興味を持ってもらう事を目的に、普段立ち入ることのできない現場や施設の見学、建設機械の搭乗体験などをしていただきました。アンケート結果から「ものづくりの喜び」、「地図に残す事ができる」「スケールの大きな仕事ができる」といった建設業の最大の魅力を伝えることが出来たと思います。

また、「本日の現場見学に参加して建設業に就職したいと思いませんか」の問いに対しては「就職したい」36%、「検討中」46%と多くの生徒に我々の思いを伝えることが出来たのではないかと思います。

地方の建設業にとって若手技術者・技能労働者の不足は本当に深刻な問題です。そして、地域技能労働者の方々にとってもこのまちの基盤を作る人材の不足というのは深刻な問題だと思います。どのようにして建設業の魅力を伝え、人材確保するかが重要です。今後も更なる人材確保・育成の取組みとして継続的に事業を行う事が必要不可欠であると思います。

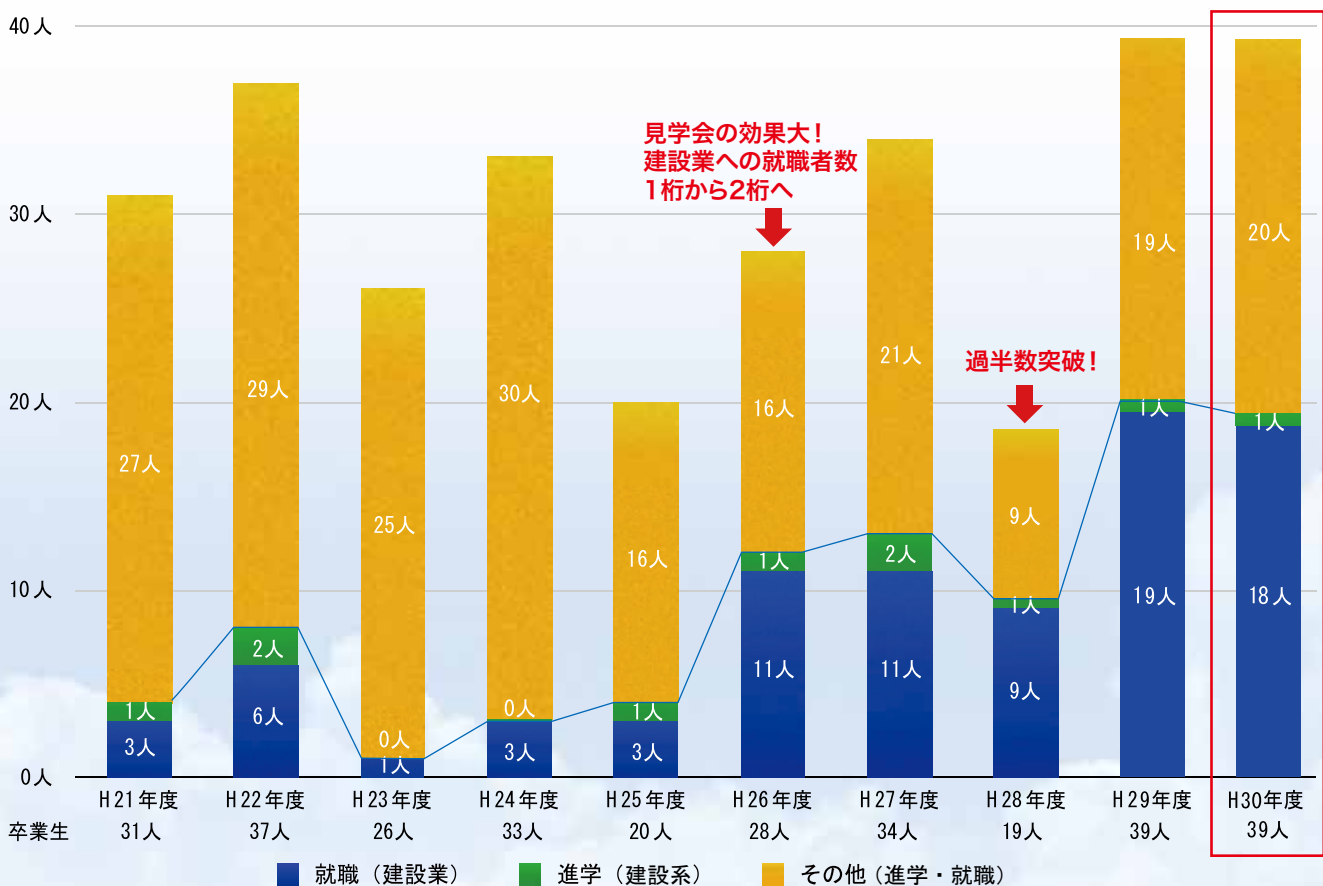
次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を 実施して感じること(考察)

出雲農林高校環境科学科2年生を対象にした現場見学会・意見交換会は、平成25年度から実施し今年度で6回目となりました。高校卒業後の進路の状況について本事業開始前と開始後の就職先について調査を行いました。本事業が開催される前と後では、建設業への就職が飛躍的に増加してきています。それは、建設業の3K(きつい・汚い・危険)といった漠然とした悪印象が、本事業を通して徹底した安全管理、効率化された建設機械作業により作業環境が整ってきていることを知り、そして「ものづくりの楽しさ」、「やりがい」を肌で感じることで今まで以上に建設業への興味や魅力を持っていただいた成果だと考えます。

今日、建設業界の若手技術者不足は我々建設業界にとって深刻な問題となっています。そして、今年度は島根県西部地震や平成30年7月豪雨など中心に甚大な被害が発生しました。災害が発生した時、復興を支えるのは地元の建設業界です。建設業界の若年層の在職者不足は、地域の方々にとっても深刻な問題だと思います。

今後も本事業を継続して行い、これから進路を検討される生徒達に向けて建設業の役割と魅力を伝え、より多くの入職者が増える活動を行って行きたいと思えます。

卒業後の進路状況



島根県立出雲農林高校環境科学科 進路決定状況より

出雲農林高校(環境科学科)中学生一日体験入学 支援事業に参加して

経営研究委員会

委員長 三原 惇 志

平成30年8月22日(水) 出雲市内外の中学3年生を対象とした島根県立出雲農林高校の一日体験入学に参加しました。

建設業界は現在全国的に深刻な人手不足が続いており、この状態が今後も続けば今まで培ってきた熟練者の技術は次世代への技術継承がなされないことが懸念されています。そこで我々建設業協会青年部会では、3年前から次世代建設就業者育成事業の一環として、出雲市内で唯一土木系専門学科の勉強が出来る出雲農林高校環境科学科への進学を促進するために、出雲市内外の中学3年生を対象に毎年農林高校へ出向き一日体験入学の協力をおこなっております。

この日は午前の部(2回)と午後の部(2回)で合計55人の中学生の方に参加して頂き、農林高校にある3t級バックホウと(株)板倉重機様より用意して頂いた7t級バックホウ2台合計3台で校内の敷地内にてバックホウの搭乗体験(土掘り)と、建設現場の作業風景等のパネルを展示し、現場の機械や作業工法を青年部会員が説明しました。

バックホウ搭乗体験では生徒達は青年部会員から操作方法等の説明を受け、実際にレバーを握りバックホウを動かして土を掘る体験をして頂き、普段触れることの出来ない建設機械に最初は緊張していた生徒達も乗り終わると、笑顔で感激の声を上げていました。

また、パネル展示では、建設現場の仕事内容など説明し、生徒からは様々な質問があがりとても良い交流ができました。

当日参加して頂いた生徒は男子生徒のみならず女子生徒も同様に楽しんでくれました。近年は建設機械の発展により作業環境の改善が行われ、従来のような人力作業は少なくなり女性も建設現場で活躍出来る環境が整いつつあると思います。

工事現場は気象等により工程の影響など受けやすくて大変な面もありますが、目に見えて完成していく工程はとても面白いです。今まで何げなく見ていた工事現場も、この体験で何か違う見方に変わってくれると嬉しいです。この体験入学がこれから進路を検討している生徒達にとって、大変有意義な時間となり、建設業に興味を持った生徒が男女問わず一人でも多く増える事に期待しています。



地域貢献事業報告

第19回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦 ～2018道路清掃～

地域貢献委員会 委員

(株)今岡興産 日 野 肇

今年度も引き続き地域貢献活動の一環として、平成30年7月24日に『ふるさとまるごとクリーンアップ作戦』を実施しました。今回は出雲市駅周辺の出雲市停車場線・出雲路自転車道線・今市21号線・今市122号線・有原東町線を4班に分けて実施しました。

当日、出雲建設会館で出陣式を行いました。内藤部会長挨拶の後、がんばろうコールで一致団結して全会員で清掃活動を開始しました。

連日の異常な猛暑の中での清掃活動で熱中症が心配されましたが、適度な休憩とこまめな水分補給に注意しながら無事クリーンアップ作戦を終えることができました。今回は8月に開催されます出雲神話祭、出雲盆踊り会場である出雲市駅周辺での清掃活動でしたが、事前に担当委員として下見を行った時には流石わが町出雲だけあってそんなにゴミは落ちてないのかなという印象でしたが、いざ始めてみると目立たない所にタバコの吸殻、植樹帯の中には空き缶、紙くずなどゴミがたくさんありました。ただ歩いているだけでは分からない見えない所も綺麗にすることで出雲市を訪れる観光客の方々に綺麗な街、出雲を印象付けることができたのではないのでしょうか。

このようなクリーンアップ作戦を今後も継続し建設業界全体のイメージアップに貢献して行きたいと思えます。最後になりましたが、クリーンアップ作戦にご協力していただきました(株)原商様・(株)リョーキ様・オーケーリース(株)様ありがとうございました。また、参加されました皆様大変お疲れ様でした。



会員交流事業報告

研修視察に参加して

会員交流委員会 委員

(株)中筋組 石 飛 大 輔

今年度の視察研修は兵庫県においてキャタピラージャパンの兵庫教習センター及び明石事業所視察を主な目的として10/19から2日間の研修を実施しました。

最初の訪問先はキャタピラー教習所兵庫教習センターにてICT（情報化）施工について話を伺いました。ICT施工とは、情報通信技術を活用し、施工現場での生産性や品質安全性の向上を図ることです。国交省が推進を提唱したことを受け、脚光を浴びています。キャタピラージャパンは独自のICTで機械管理・施工管理・安全管理・生産管理の現場全体の見える化を図り生産性の向上に繋がると説明がありました。また、昨今の建設業の問題として技術者の高齢化と人手不足が深刻化しています。そこでICTを活用し作業員一人一人の生産性を上げる必要もあるとも言われました。3次元で情報を管理、運用することによって今、建設業で起こっている様々な問題がクリアになるのではないかと印象に残りました。

次に訪問したのはキャタピラージャパン明石事業所を視察しました。明石事業所内では油圧ショベルやアスファルトフィニッシャー等の機器生産や機器の開発も設置されていると説明がありました。説明後、工場内にて油圧ショベルの作業工程を見学させてもらいました。組立作業は一つの工程に4～5人でチームを組み、たくさんの工程・作業員の方が携わっておられました。1日の機器完成ノルマが決まっておりととてもシビアな環境でした。

明石事業所では一つの機器を完成させるのにたくさんの人が関わっていること、細部に至っては手作業で組立ていることに対する驚きがありましたが、印象に残っているのは毎年工場敷地内にて近隣住民、社員、社員家族に感謝の思いを込めてお祭を開催していると話を伺ったことでした。

今回の研修は初参加でしたが、これからの建設業について考えさせられる貴重な研修となりました。また、研修後の夕食では諸先輩方と様々な話をし、親睦を深めることができ大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

ご参加いただいた会員の皆様方には大変お世話になり、有難うございました。



会員交流事業報告

意見交換会 2018

会員交流委員会 副委員長

(有)ナギラ建工 柳 樂 則 昭

平成 30 年 10 月 3 日（水）に出雲建設会館において、青年部会経営研究委員会が担当する、「意見交換会 2018」を開催致しました。

研修会では、出雲県土整備事務所より、建築部建築課課長 松田啓様、土木工務部第四課土木工務第五係係長 青木栄治様をお迎えし、ご講演いただきました。

松田課長には、「H 30.7 豪雨災害呉派遣について」と題し、県土職員として災害派遣の経験から建物の応急危険度判定等の作業された上で判定基準及び調査概要を現地写真や調査票を交えて講演いただきました。今まで知らなかった災害での建築物危険度判定の災害基準を知ることが出来ました。

青木係長には、「近年の土砂災害の動向について」と題し、説明して頂いたほか土砂災害への対策として「ハード対策」「ソフト対策」などの施工事例を交えたご講演を頂きました。各種説明においては、臨場感のある映像も用意していただき土砂災害の恐ろしさをより実感する事ができました。

今回の二つの講演を通して近年各地で多発している自然災害への対策知識を得ることが出来大変勉強になりました。

研修会終了後は、場所を移動し、出雲県土整備事務所より 14 名の参加をいただき意見交換会を開催しました。普段ではお聞きできないお話を伺うことが出来ました。

また、女性職員の方も多く参加いただき女性目線での建設現場の話も伺うことが出来たのは大変参考になり、今後の業務に活かしていきたいと思います。



地域貢献事業報告

土木の日記念イベント2018

地域貢献委員会 委員

(有)丸嘉土建 山根 英二

今回で4回目の開催になる『土木の日記念イベント』が平成30年11月3日(土)にメイン会場を上塩治スポーツセンターとし、斐伊川放水路内での建設機械の展示及び搭乗体験、斐伊川放水路記念館でのパネル等の展示などをサブ会場として開催されました。イベント当日は天候にも恵まれ、家族連れ、お孫様と来場など約300名の方にご来場いただきました。

今回2回目の参加となりましたが、私はメイン会場内での「ものづくり体験」に参加させていただきました。子供たちが松ぼっくりやどんぐり、木の廃材などを利用し綺麗なシール、飾付けなどをしながら自由に作るコーナーでした。

最初は人も少なく遠慮がちに工作をしておられる様子でしたが徐々に人も増え始め、中にはただひたすらに木を接着していた男子、ビーズの取り付け位置を完璧にしたい女子、1度作ってはみたが納得がいかないのか結局3回こられたご姉妹、いろいろな感性を持つ子供たちが大勢集まり気づけば材料が足りなくなり追加購入をしにいかねばならないほどの盛況振りでした。

子供たちが自由な発想で物を作る様子を間近で見ている自分も作ってみました。やはり子供たちの想像力、「そのパーツをそう使うのか」などの独創性には到底かないませんでした。近くにいたお父様とお話をさせていただきました。「普段はこのような体験をしないもので自分の子供が物を作ることに興味があることを感心しています。」と工作の様子を眺めておられました。その他のコーナー、サブ会場での建設機械搭乗体験等も盛況だったと聞き地域の方々と交流が図られたと思います。

土木の日記念イベントが「何か物を作りたい」など建設業という職種への興味や理解、魅力を感じ、将来建設業に携わりたいと思えるような交流の場になることを願います。今回のイベントに参加された大勢の皆様、大変お疲れ様でした。



地域貢献事業報告

西日本豪雨災害ボランティア活動に参加して

総務広報委員会 副委員長

大和建设(株) 布野 智大

本年度の平成 30 年 7 月に、西日本の各地で豪雨災害が発生しました。

そこで、建設業に従事する我々青年部会にできる事を考え、ボランティア活動に参加する事を決めました。

平成 30 年 9 月 11 日（火）に、広島県三原市災害ボランティアセンターを通じ青年部会 13 名で活動に参加しました。まず、現場に向かう途中で土砂崩落・家屋浸水など様々な被害状況を目の当たりにし、不安を感じました。我々青年部会が作業したのは、本郷町の浸水した家屋の土壁解体及び内部のがれき類の撤去でした。家屋の内外部を手分けして取り掛かり、全て人力での作業だったため、終わりが見えず心配していましたが、予想以上の成果で終わることが出来ました。その家屋には老夫婦で暮らしておられ、作業前には笑顔もなく会話もあまりなかったのですが、作業後には笑顔も見られ「若い皆さんのお陰で大変助かりました」というお言葉を頂きました。また、ボランティアセンターへ作業終了の報告をした際にも、予想以上の成果で大変驚かされていました。

この活動を通じ、より災害の恐ろしさや建設業に従事する者としての誇りを感じることが出来ました。また、建設業という職種の魅力発信へと繋がり、建設業界に今以上の目を向けてもらえればと思います。

最後に参加された皆様、大変お疲れ様でした。

建設興業タイムス 平成30年9月19日(水)



民家の土壁を解体する出雲地区建設業協会青年部会の会員＝三原市本郷町

**被災地で
ボランティア**
出雲地区建設業協会
青年部会（内藤正和部
会長）はこのほど、7
月豪雨災害で被災した
広島県三原市でボラン
ティア活動を実施。会
員企業から16人が参加
し、浸水家屋の土壁解
体やがれきの撤去作業
をした。
今回の被災地支援は
三原市災害ボランティ
アセンターを通じて、
一般のボランティアと
して参加。支援した民
家の住人は「老夫婦の
人暮らしで困ってい
たが、若い
皆さんのお
かけで大変
助かった」と喜んでい
た。



新入会員紹介



(株)今岡興産 日 野 肇

今年度から青年部会に入会させていただいております、株式会社今岡興産の日野肇と申します。

私は建設業に従事して約20年になります。これまで現場管理をしていましたので、自分には全くの無縁と思っていた青年部会へ入会し、最初は、どのような人達とどのような活動をするのか、少し不安に思っていました。しかし、入会してみると皆さん気さくに接してくださり、今では何の不安もなく活動に参加させていただいております。

近頃ニュースに取り上げられる、自然災害の増加、業界全体の高齢化、深刻な人手不足等、さまざまな問題が多いですが、青年部会の活動を通して少しでも建設業界のイメージアップに貢献できればと思っております。

年齢的には若手ではありませんが、若手の気持ちで頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



(株)中筋組 石 飛 大 輔

今年度より一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会に入会し、会員交流委員会で活動させていただいております、(株)中筋組の石飛大輔と申します。大学を卒業後、(株)中筋組に入社し建設業に携わるようになって約16年が経ちました。

この度青年部会へ入会するにあたり、まだまだ知識も経験も浅い私にとっては不安もありましたが、意見交換会・ボランティア活動・研修視察等で青年部会の皆様と共に活動する事で、今までできなかった経験をする事ができました。

今後も様々な活動を通して微力ながら建設業の発展、地域貢献の為に努力していく所存でありますので、ご指導の程宜しくお願い致します。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 歴代部会長

初代部会長	山本恭則	平成9年度
第2代部会長	今岡裕統	平成10～13年度
第3代部会長	別所幸雄	平成14～15年度
第4代部会長	広戸 修	平成16～17年度
第5代部会長	久文秀典	平成18～19年度
第6代部会長	山崎章弘	平成20～21年度
第7代部会長	山口 弥	平成22～23年度
第8代部会長	梅野直宏	平成24～27年度
第9代部会長	山崎育男	平成28～29年度

編集後記

1989年1月8日から始まった「平成」も残りわずかとなりました。2019年4月30日には天皇陛下が退位され、5月1日に皇太子さまが即位され、新元号が適用されます。

昨年の12月12日、京都市東山区の清水寺で平成最後となる今年の漢字が「災」と発表されました。昨年は年末の豪雪からはじまり大阪府北部地震に北海道胆振東部地震、近畿地方に上陸した大型台風、中国地方を襲った西日本豪雨に島根県西部地震と災害に見舞われた1年でした。青年部会も広島県三原市へ災害ボランティア活動に赴きました。思い返せば昨年だけでなく毎年日本各地で災害が発生し、その地で生活されている方々は平常の生活がおくれない不安な生活を過ごされています。

建設業とはその地に住まわれる方々の安全安心な生活を支えるため、災害予防策や被害軽減対策、起こってしまった災害の復興など社会において重要な責務があります。

平成最後の年、日本は少子高齢化の社会の中で建設業にとっても担い手不足、従事者の高齢化等問題は山積みですが、新元号で始まる未来は魅力ある建設業界になり、地元と共に発展することを切に願います。

総務広報委員会 委員 御船 善弘

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)
青年部会の活動についてもご案内しています。是非ご覧ください。